

令和 2 年 6 月 11 日現在

機関番号：32615

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02602

研究課題名(和文) 西洋古典文学における神話叙述の伝統と改変に関する神話学的・比較作品論的研究

研究課題名(英文) A Mythological and Comparative Literary Study on the Tradition and the Innovation of Mythological Narratives in Greco-Roman Classical Literature

研究代表者

佐野 好則 (Sano, Yoshinori)

国際基督教大学・教養学部・教授

研究者番号：50295458

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：『イーリアス』の神話叙述に関しては、先行する神話の話型を推測する新分析論の方法論を批判的に検討し、範例として用いられる神話叙述の作品構成上の重要点を解明した。『オデュッセイア』における神話叙述に関しては、セイレーンの叙述と木馬の策略の叙述について比較の視点を導入することによって解明した。『縛られたプロメテウス』におけるイーオー神話に関しては、同題材を扱う他の作品との比較の観点からイーオーの人物像に新たな解釈を施し、記憶とアイデンティティーのモチーフの重要性を指摘し、イーオーの旅路の地理上の問題点を解明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

入門書『ホメロス『イーリアス』への招待』に掲載された二つの章には、『イーリアス』を読解する際の方法論の重要性および範例として用いられる神話叙述の重要性を一般読者にわかりやすく伝える社会的意義がある。『イーリアス』、『オデュッセイア』、『縛られたプロメテウス』の神話叙述の特徴について、作品比較の観点を導入し叙述技法に注目することによって新たな解釈の可能性が開かれることを日本語および英語の学会発表と論文発表により国内・海外に発信したところに本研究の学術的意義がある。

研究成果の概要(英文)：As for the mythological description in the Iliad, the methodology of Neoanalysis, which postulates a prior version of the myth, was critically examined, and the importance of the mythological descriptions in the framework of the whole epic was elucidated. As for the mythological description in the Odyssey, the description of the Sirens and the description of the ruse of the Wooden Horse were elucidated introducing the comparative viewpoint. As for the description of the myth of Io in the Prometheus Bound, the figure of Io was interpreted anew introducing comparisons with other works which contain the same mythological material, the importance of the motif of memory and identity was pointed out, and the geographical problem of the course of Io's wandering was elucidated.

研究分野：西洋古典学

キーワード：古代ギリシア文学 神話 叙述技法 『イーリアス』 『オデュッセイア』 「叙事詩の環」 『縛られたプロメテウス』 ヘーロドトス 『歴史』

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

西洋古典作品における神話叙述の研究においては、比較神話学に影響を受けた豊かな成果が蓄積されてきた。しかし、従来の研究においては神話の内容が関心の中心であったこと、そして叙述技法および表現形式に注目することにより西洋古典作品の神話叙述を新たな観点から解明する余地があることが本研究開始当初において認識された。

### 2. 研究の目的

本研究においては、西洋古典の代表的な作品として主にホメーロス叙事詩『イーリアス』、『オデュッセイア』、そして伝アイスキュロス作『縛られたプロメテウス』を取り上げ、それらにおける神話叙述を叙述技法の観点から解明し西洋古典作品における神話叙述の新たな理解に貢献することが包括的な目的となった。この目的の実現のためにこれらの作品の神話叙述における叙述技法の比較作品論の手法による実証的な解明が遂行された。

### 3. 研究の方法

第1年次にあたる2017年度には、まず一つ目の重点課題である『イーリアス』における神話叙述に関しては、研究の基礎となる作品成立に関する問題(ホメーロス問題)および登場人物が語るパラダイグマ(例話)としての神話叙述に関して調査し、それぞれのトピックで『イーリアス』に関する入門書への概説の掲載の準備を進めた。二つ目の重点研究課題である『オデュッセイア』における神話叙述に関しては、8月にオックスフォード大学への研究旅行を実施し、ボドレイアン図書館において『オデュッセイア』におけるセイレーンの叙述に関する文献を複写・収集した。またこの研究旅行中に開催した研究会議において、海外研究協力者である Malcolm Davies 教授(Oxford University)、Stephen Harrison 教授(Oxford University)、Patrick Finglass 教授(Bristol University)より得た示唆に基づき、『縛られたプロメテウス』におけるイーオー神話の叙述が三つ目の重点研究課題として設定された。それに関する研究文献をボドレイアン図書館にて複写・収集した。帰国後9月に海外研究協力者である Malcolm Davies 教授を招いて研究会議を開催し、そこで受けた指摘に基づき『オデュッセイア』とアポローニオスの『アルゴナウティカ』におけるセイレーン神話の叙述を比較検討する研究論文を執筆した。また10月に本研究機関に招聘した海外研究協力者である Douglas Cairns 教授と開催した講演会及び研究会議において『オデュッセイア』と『アルゴナウティカ』におけるセイレーン神話の叙述の比較に関して示唆を受け、このトピックの論文を完成し、またプラトーン対話編における神話叙述の研究についての示唆を得た。さらに『イーリアス』の作品成立に関する問題と登場人物が語るパラダイグマ(例話)に関する概説を執筆した。年度末には研究会において『縛られたプロメテウス』におけるイーオー神話の叙述に関する予備的な研究発表を実施した。

第2年次に当たる2018年度には、まず『イーリアス』における神話叙述を「叙事詩の環」における類似エピソードと比較する新分析論の方法論に関連する先行研究の文献調査を実施し、中間的な成果としてこの分野の近年の研究書の書評を執筆した。9月にホメーロス叙事詩の神話叙述および『縛られたプロメテウス』におけるイーオーの神話叙述の背景に関する調査のためギリシアへの研究旅行を実施し、アテネ、エレウシス、カリュドーン、ドードーナ、イオアンニナの考古学遺跡および博物館にて現地調査を行った。さらにアテネの Epigraphical Museum にて海外研究協力者 Adele Scafuro 教授(Brown University)の指導のもとに古典期アテネ民主制に関する碑文の現物調査を実施したのち海外研究協力者竹内一博博士(当時アテネ大学所属)も交えて研究会議を開催し古典期アテネのディオニューシア祭での悲劇上演に関する碑文研究の動向について意見交換を行った。以上の文献調査、現地調査、研究会議の成果を総合して、次年度におけるそれぞれの重点研究課題に関する口頭発表及び研究論文執筆の準備を進めた。『イーリアス』の神話叙述に関しては、新分析論の方法論の再検討に関する学会発表の準備を進めた。『オデュッセイア』の神話叙述に関しては、木馬の策略の叙述に関する先行文献の調査を実施した。『縛られたプロメテウス』におけるイーオー神話の検討に関しては、ヘーシオドス『名婦のカタログ』、バッキュリデース『ディーテュランボス』第5歌、アイスキュロス『ヒケティデス』における同神話の叙述との比較検討を進めた。またヘーロドトス『歴史』第1巻におけるクロイソスとソローンの会見場面の叙述は、作者による創作の度合いが高い叙述であるため、その分析が本研究の関連課題として設定された。

本研究の最終年次に当たる2019年度においては、まず本研究の関連課題であるヘーロドトス『歴史』におけるクロイソスとソローンの会見場面の叙述に関する論文を英語で執筆した。『イーリアス』における神話叙述に関しては、新分析論の方法論の検討を進め6月に学会での口頭発表を行い、そこでの質疑応答で得た知見をもとに学術誌に掲載すべく学会動向報告を執筆した。また『オデュッセイア』における木馬の策略の神話叙述に関してコインブラ大学での国際学会にて英語で学会発表を行い、海外研究協力者である Maria da Fátima Silva 教授(University of Coimbra)、山形直子博士(Open University)、Jan Haywood 博士(Open University)、David Bouvier 教授(University of Lausanne)からの示唆を受けて論文執筆の準備を進めた。さらにロンドン大学図書館で文献調査・収集を行い、海外研究協力者である Malcolm Davies 教授、Patrick Finglass 教授、Douglas Cairns 教授との研究会議を開催して本研究の成果発表に向けて示唆を得た。この示唆により、『縛られたプロメテウス』におけるイーオー場面の叙述について、イーオーの人物像と、記憶とアイデンティティーのテーマの重要性と、イーオーの旅路の地理上の問題点の三つの観点から研究論

文執筆の準備を進めた。7月には九州大学での学部・大学院共通集中講義において、様々なジャンルの諸作品(『名婦のカタログ』、バッキュリデース『ディーテュランボス』第5歌、アイスキュロス『ヒケティデス』、『縛られたプロメテウス』、オウィディウス『変身物語』)におけるイーオー神話の叙述を比較検討した成果を発表し、研究協力者である浜本裕美准教授(九州大学)と新島龍美准教授(九州大学)より本研究の内容について示唆を受けた。その際、その示唆をもとに、『縛られたプロメテウス』におけるイーオー神話の叙述について、イーオーの人物像の観点から研究論文を執筆し、この神話叙述における記憶とアイデンティティーのモチーフの観点から英語による研究論文を執筆し、さらにイーオーの旅路の地理上の問題点の観点から英語で研究ノートを書いた。さらに本研究の最終的成果としてのホメロス叙事詩における神話叙述の総合的研究書出版に向けた準備を進めた。

#### 4. 研究成果

本研究の重点研究課題の一つである『イーリアス』の神話叙述に関しては、「叙事詩の環」との比較に注目する新分析論の方法論を検討し、その中間的成果として書評「M. Davies, *The Theban Epics*/M. Davies, *The Aethiopsis*」を『西洋古典学研究』67号(2019)に掲載した。さらに『イーリアス』に関する入門書『ホメロス「イーリアス」への招待』(ピナケス出版 2019年)に2つの章(「ホメロス問題」と「パラダイグマ(例話)」)を掲載した。「ホメロス問題」には、『イーリアス』の主要な研究方法のうち口承詩理論と新分析論の発展と課題を概観し、それに基づいて詩人の創造性のありかを解明した意義がある。「パラダイグマ(例話)」には、『イーリアス』の登場人物の科白に織り込まれた様々な神話叙述の作品全体内における配置や、それらの神話叙述と作品のメインプロットとの関わり、比喩の用法との比較などを通じて、『イーリアス』におけるパラダイグマとして用いられた神話叙述の重要性を包括的に解明した意義がある。新分析論の研究手法の検討に関しては、さらに2019年6月の西洋古典学会大会(於学習院大学)において研究動向報告「『イーリアス』研究における新分析論の展開」を口頭発表し、その内容が研究動向報告「『イーリアス』研究における新分析論とその批判的受容」として『西洋古典学研究』68号(2020)に掲載された。この研究動向報告では「叙事詩の環」に属する『アイティオピス』におけるアキレウスの死をめぐる一連の出来事と『イーリアス』におけるパトロクロスの死をめぐる一連の出来事との対応と相違を確認した上で、新分析論の近年の批判的受容を紹介したもので、新分析論の方法論は今日のホメロス研究において『イーリアス』の特質を発見する契機を提供しているものであることを指摘した意義がある。

本研究の二つ目の重点課題である『オデュッセイア』における神話叙述の解明に関しては、その中間的成果として研究論文「『オデュッセイア』と『アルゴナウティカ』におけるセイレーン・エピソード」を学術誌『ペディラヴィウム』72号(2017)に掲載した。これは『オデュッセイア』においてセイレーンたちの魅惑として歌の内容である知識が強調されるのに、この叙述を手本とする『アルゴナウティカ』においてはセイレーンたちの魅惑は純粋に歌声の美しさとして行われているという相違点について、それぞれの作品でセイレーンたちと対峙する人間の人物造形(知識を求めオデュッセウス、竖琴の名人であり危険を素早い機転で乗り越えるオルペウス)との密接な関連があることを指摘した。この研究論文には『アルゴナウティカ』における『オデュッセイア』の受容研究に新たな視点を提供した意義がある。また『オデュッセイア』の神話叙述に関しては、第4歌、第8歌、第11歌の木馬の策略の叙述を「叙事詩の環」に属する『小イーリアス』と『イーリオンの陥落』と比較しつつ各文脈での神話改変を検討し、2019年6月末の国際学会 Celtic Conference in Classics (於コインブラ大学)において英語で口頭発表「Three Summaries of the Ruse of the Wooden Horse in the *Odyssey* and Beyond」(2019)を行った。同内容の研究論文「Three Summaries of the Ruse of the Wooden Horse in the *Odyssey*」が2020年度中に Cambridge Scholars Publishing より出版される予定である。

本研究の三つ目の重点課題である『縛られたプロメテウス』におけるイーオー神話の叙述の解明に関しては、2018年3月の研究会での口頭発表「『縛られたプロメテウス』におけるイーオーの彷徨譚」において先行研究の動向を把握した。先行作品である伝ヘーシオドス『名婦のカタログ』、バッキュリデース『ディーテュランボス』第5歌、アイスキュロス『ヒケティデス』と比較して『縛られたプロメテウス』におけるイーオー像を解明する研究論文「イーオーとプロメテウスの邂逅 『縛られたプロメテウス』におけるイーオー像をめぐる」を完成させた。これを掲載する論文集が晃洋書房より2020年度中に出版される予定である。また『縛られたプロメテウス』におけるイーオー神話における記憶とアイデンティティーの重要性に着目した英語の研究論文「Memory, Identity and Theodicy in Io's Journey: The Representation of Io in *Prometheus Bound*」を執筆した。この論文を掲載する論文集は2020年度中に出版される予定である。さらに『縛られたプロメテウス』におけるイーオーの旅路の問題点について英語で研究ノート「A Note on the Location of the Caucasus on Io's Journey in the *Prometheus Bound*」を執筆した。これを掲載する論文集が2020年度中に東京大学西洋古典学教室により発行される予定である。

本研究の関連研究課題であるヘーロドトス『歴史』におけるフィクショナルな叙述の解明の成果として、英語による研究論文「The Meeting of Croesus and Solon in Herodotus' Histories I」を論文集 *Story and History* (Mohr Siebeck, 2019)に掲載した。この論文には、ヘーロドトス『歴史』におけるクロイソスとソローンのフィクショナルな会見場面とソローンの現存の詩との新たな関連性を指摘した学術的意義がある。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 佐野好則	4. 巻 67
2. 論文標題 (書評)M.Davies, The Theban Epics/M. Davies, The Aethiopsis	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 西洋古典学研究	6. 最初と最後の頁 116-118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 佐野好則	4. 巻 72
2. 論文標題 『オデュッセイア』と『アルゴナウティカ』におけるセイレーン・エピソード	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『ペディラヴィウム ヘブライズムとヘレニズム研究』	6. 最初と最後の頁 7-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Yoshinori Sano	4. 巻 1
2. 論文標題 The Meeting of Croesus and Solon in Herodotus' Histories I	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Story and History	6. 最初と最後の頁 135-150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 佐野好則	4. 巻 68
2. 論文標題 『イーリアス』研究における新分析論とその批判的受容	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 西洋古典学研究	6. 最初と最後の頁 87-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 佐野好則
2. 発表標題 『縛られたプロメテウス』におけるイーオーの彷徨譚
3. 学会等名 西洋古典学研究発表合宿
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐野好則
2. 発表標題 『イーリアス』研究における新分析論の展開
3. 学会等名 西洋古典学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshinori Sano
2. 発表標題 Three Summaries of the Ruse of the Wooden Horse in the Odyssey and Beyond
3. 学会等名 Celtic Conference in Classics (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 川島重成、古澤ゆう子、小林薫、安村典子、佐野好則、他9名	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ピナケス出版	5. 総ページ数 592
3. 書名 ホメロス『イーリアス』への招待	

〔産業財産権〕

〔その他〕

ICU研究者情報データベース  
<https://researchers.icu.ac.jp/icuhp/KgApp?kyoinId=yimiogioiggy>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	デイヴィーズ  (Davies Malcolm)	オックスフォード大学	
研究協力者	ハリソン  (Harrison Stephen)	オックスフォード大学	
研究協力者	フィングラス  (Finglass Patrick)	ブリストル大学	
研究協力者	ケアンズ  (Cairns Douglas)	エディンバラ大学	
研究協力者	シルヴァ  (Silva Maria da Fatima)	コインブラ大学	

## 6. 研究組織 (つづき)

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	山形 直子 (Yamagata Naoko)	オープン・ユニバーシティ	
研究協力者	ヘイウッド (Haywood Jan)	オープン・ユニバーシティ	
研究協力者	ブヴィエ (Bouvier David)	ローザンヌ大学	
研究協力者	浜本 裕美 (Hamamoto Hiromi)	九州大学	
研究協力者	新島 龍美 (Niijima Tatsumi)	九州大学	
研究協力者	スカフーロ (Scafuro Adele)	ブラウン大学	